



第57回中・四国小学校体育研究大会 (徳島大会) を終えて

中・四国小学校体育連盟
徳島県小学校体育連盟

会 長 中 江 英 生

「笑顔みちる水都 とくしま」におきまして、第57回中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）が、雲一つ無い晴天のもと徳島市津田小学校で開催されました。中・四国各県から700名を超える先生方のご参加をいただき、盛大に開催できましたことを心から感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。

本大会に向けて、会場校はもちろんのこと大会実行委員会では、参加いただく皆様になるべくご不便を感じさせないよう、運営面全てにおいて力を注いで参りました。何かとご迷惑やご不便をおかけしたかもしれませんが、大会を無事終えることができた今、関係者一同安堵感と喜びの気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

さて、徳島県では40年ほど前から「楽しい体育学習」の実現を求めて、授業の改善・充実に努めてきた歴史があります。子供たちが運動に親しみ、嬉々として夢中になって学習に取り組む姿を追い求めてきました。評価を工夫したり、学習のスタイルや、学習方法を工夫したりしてきましたが、全ての子供たちが運動に主体的に関わり、楽しい体育学習ができてきたのかを問い返してみると、残念ながらそうではなかったとの反省がありました。そこで、本大会では全ての子供が学び続ける支援のあり方を研究内容の柱として取り組んできました。

また、本県の学校ではここ数年大量退職、大量採用の時代を迎えました。学校では世代交代が著しく進んでいます。このような状況の中、全ての教員が充実した授業を提供できるよう、全県を挙げて準教科書を活用した授業実践を進めています。会場校の津田小学校の公開授業におきましても、準教科書を活用している場面が随所に見られました。

新時代「令和」の始まりと、新学習指導要領の完全実施の前年という、新しい歴史の始まりが色濃く感じられる年の開催ということで、大きな責任を感じながらの大会運営でしたが、分科会等でいただきました皆様からのご意見やご感想を今後の徳島の体育に活かすとともに、中・四国小学校体育連盟の発展の一助となったのであればこの上ない喜びです。

全体会では、中・四国小学校体育連盟最高顧問の成田十次郎先生から、これまでの中・四国小学校体育連盟の歴史と、よい授業を提供したいという先輩諸氏の熱い情熱によって本大会が半世紀を超え続いてきていることを教えていただきました。また「Society5.0時代の体育学習」と題して、ご講演いただきました東京学芸大学副学長松田恵示先生からは、新時代に向けての体育学習はどのように考えていくのか、そしてどのように取り組んでいくのかをご教示くださいました。本当にありがとうございました。

終わりにになりましたが、大会の開催にあたりご指導・ご助言賜りましたスポーツ庁、徳島県教育委員会、徳島県市町村教育委員会連合会等関係諸団体にたいしまして、また、研究、運営等でご協力いただきました徳島市・名東郡小学校体育連盟の皆様に対しまして厚くお礼申し上げます。そして、学校施設等でご協力いただきました津田中学校の皆様、全ての子供がいきいきと学習した授業を公開していただきました徳島市津田小学校の先生方と児童の皆さんに深甚なる敬意を表しお礼申し上げます。

来年度、第58回中・四国小学校体育研究会（広島大会）が、さらに実り多い大会になりますことを祈念しましてごあいさつといたします。

第57回中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）

徳島大会でのアンケート記入へのご協力ありがとうございました。

中・四国小学校体育連盟では、皆様からのご意見・ご感想を生かし、実際の教育現場に役立つ研究大会を目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本研究大会についてのご意見・ご感想

研究主題

- 運動の面白さに迫るための手立てが工夫されており、楽しさや喜びを授業の中心に据えた、子ども主体の授業が展開されていた。

分科会での内容等

- 「豊かな学び」につながるように教具や場の工夫が充実しており、今後の参考となった。
- 本質的な面白さや技能向上に迫るためにも、課題を明確にした教師の働き掛けの大切さを再確認することができた。

授業・子どもの様子

公開授業Ⅰ

（1年 ゲーム）

- 子どもの気持ちを大切に授業が進められていた。ゲームの中での教師の評価、ボールの数、ルールの徹底など、教師の働き掛けの大切さを再確認することができた。

（2年 器械・器具を使つての運動遊び）

- 遊びを通して生み出される子どもの気付きや思いを生かした授業展開となっており、体育が楽しいと思ふことのできる取組を子どもと一緒に考えている授業であった。また、初めて見る教具や場の工夫がなされており、子どもたちが夢中になって活動する姿が印象的であった。

（3年 表現運動）

- 教師の温かな関わりが子どもに伝わりとてもよい雰囲気であった。教師の言葉掛けや題材によって、子どもの動きや技能の高まりが変わってくるがよく分かった。

（4年 体づくり運動）

- 場の設定や用具の工夫が大変参考になり、面白さを追求した提案性の高い授業であった。子どもたちが作っていく場や、広がっていく活動が教師と子どもが楽しく学びを深めていく授業となっており、子どもの思いに寄り添った授業づくりであった。

（5年 陸上運動）

- 学習の流れが分かりやすく、子どもが追究したくなる問いであった。子ども同士の対話や活動が多く設定されており、課題解決に向けて主体的に学ぶ姿がすばらしかった。

（6年 保健）

- よりよい生活を送ろうとする意欲をもたせるために一人一人が「自分カルテ」を作成したことで、これまでの学習が子どもの確かな知識となり、学びの深まりにつながっている様子が発言等に表れていた。

公開授業Ⅱ

（1年 走・跳の運動遊び）

- 子どもの多様な思いや願いに対して適切な声掛けをしながら学習が展開されており、一人一人の思いを尊重した授業づくりの大切さを改めて確認することができた。

（2年 体づくりの運動遊び）

- 身の回りの物を活用した教具が参考になった。子どもが夢中になって遊びを考え出すためにも、場を工夫することが大切さであると実感した。

（3年 保健）

- 教室という全員で考えることができる環境を設定したことで、自分ごとを軸として課題解決への必要感をもった学習が展開されていた。新学習指導要領を踏まえた内容や評価規準となっており、参考になった。

（4年 器械運動）

- 運動が苦手な子どもに焦点を当てた場の設定があり、全員が安心して運動に取り組んでいた。わたしたちの体育を活用した授業となっており、技のイメージをつかんだり、イラストをヒントに実際に行ったりして、授業での活用の仕方がよく分かった。

（5年 表現運動）

- 教師の温かな関わりが子どもに伝わり、とてもよい雰囲気の授業であった。「はげしい」という題目が、子どもの発達段階に合っており、抵抗なく表現の世界に入っているように感じた。

（6年 ボール運動）

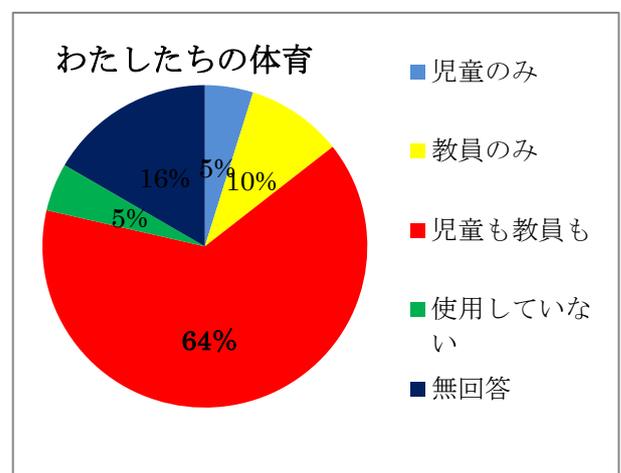
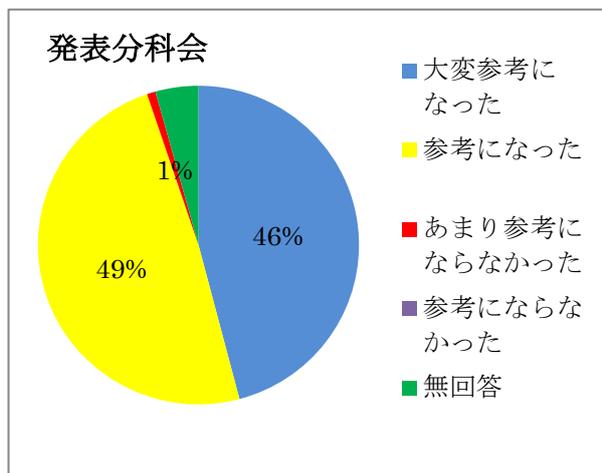
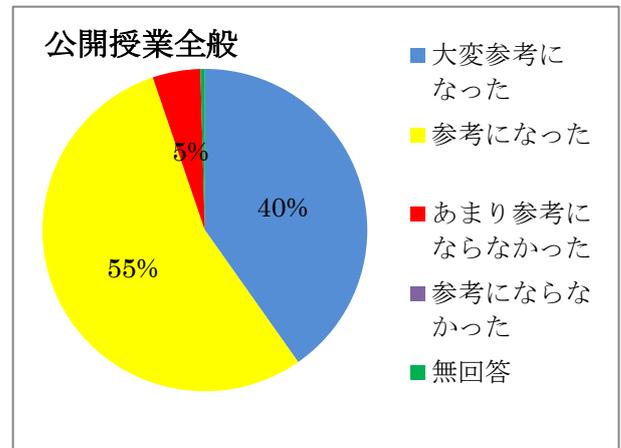
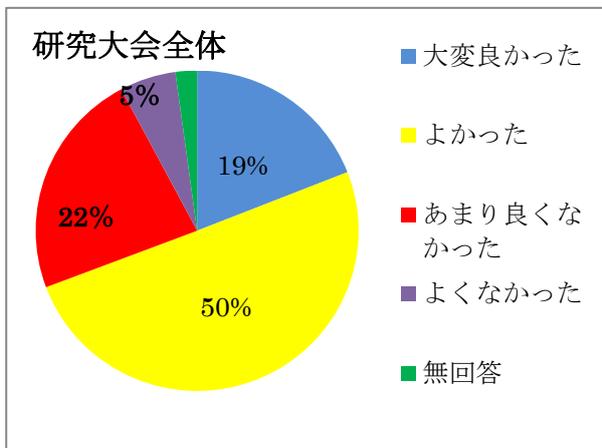
- 単元を通じて身に付けさせたい力が何かを明確にもち、単元が組み立てられていた。子ども一人一人が夢中になって作戦を考えている姿がすばらしかった。

中・四国小体連の取組についてのご意見・ご感想

準教科書「わたしたちの体育」について

- ねらいや活動例が分かりやすく示されており、指導に役立つ内容となっている。
- イラストや吹き出しが充実しており、活動の流れや動きのイメージをつかみやすい。
- 大判になったため、子どもが振り返りを書きやすくなった。
- 気付きや振り返りを蓄積していくことができるため、子どもは自分の成長を実感することができ、教師は、個の変容を見取り評価につなげることができる。
- 自由記述欄を充実させたり、運動が苦手な子どもや意欲的でない子どもに対しての指導例が記載されていたりすると、更によりよい授業づくりに活用することができる。

アンケート集計について



参加人数について

徳島	広島	高知	山口	鳥取	愛媛	島根	香川	岡山	合計
434	27	28	29	39	34	26	13	32	662